

【概要】

(1)相互理解イベント「日本文化体験会～浴衣de抹茶～」

半導体関連企業が集積する地域に近接し、在住外国人(台湾人)が多い地域特性を踏まえ、在住外国人と地域住民をつなぐきっかけづくりを目的として、日本文化体験を通じた交流イベントを実施した。場所は、北区の歴史公園である「武蔵塚公園茶室」とし、日本文化を身近に感じられる機会を提供した。

(2)外国人も参加する地域活動

専門学校日本語科のネパール人学生が、“校区体育祭”へ参加、地域(女性の会)から肉を使用しない健康弁当を提供し交流した。外国人が“龍田の森の音楽会”の民族舞踊出演、“町内一斉清掃”、“どんどや前日の清掃活動ボランティア”など、地域で活躍している。



【実施内容】

(1)相互理解イベント「日本文化体験会～浴衣de抹茶～」

昨年9月6日(土)、北区の歴史公園「武蔵塚公園茶室」において、12名の台湾人に、着物の着付け・お茶(抹茶)の体験を実施。

着付け・茶道を、国際交流や伝統文化の継承を目的に活動する「紡ぐ会」に協力いただき、地域の小中学生2名もボランティアとして参加した。

(2)外国人も参加する地域活動

地域行事やボランティア活動に外国人が参加しやすいように、外国語チラシによる周知や、北区Instagramを活用した情報発信を行い、地域住民と顔の見える関係づくりを進めている。

【期待できる効果、今後の展開】

- 日本文化体験を通じて外国人住民の満足度が高まり、地域や行政への関心・親近感の醸成につながった。
- 地域との接点が増えることで、外国人住民が安心して地域に溶け込み、「自分の居場所がある」と感じられる環境づくりや孤立防止が期待できる。
- 今後は、北区集談会での情報共有や、外国人住民自身が地域活動に主体的に関わる仕組みづくりをさらに発展させ、継続的な多文化共生を推進していく。